

平成 27 年 12 月 7 日

釜石市議会議員 佐々木 義昭 様

会派名 21 世紀の会

代表者 木村 琳藏



### 会派視察調査報告書

21 世紀の会と清流会の所属議員による視察調査を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

#### 1. 視察項目（先）

##### 1) 大阪府泉大津市

大阪府港湾局「堺泉北港ガントリークレーンの視察」

##### 2) 大阪府大阪市

「大阪市立阿倍野防災センターについて」

大阪市消防局「警防資器材、指令センター見学及び大阪市消防局長表敬訪問」

##### 3) 愛知県東海市

東海市再開発ビル（ユウナル東海）「市街地再開発事業について」

#### 2. 日 時 平成 27 年 11 月 11 日～11 月 13 日（2 泊 3 日）

3. 参加者 21 世紀の会 木村 琳藏 佐々木 義昭 千葉 榮 山崎 将也  
清流会 菊池 秀明 平野 弘之 佐々木 聡 大林 正英

4. 研修内容 別紙報告書の通りです。



1) 視察項目： 大阪府泉大津市  
大阪府港湾局「堺泉北港ガントリークレーンの視察」

視察日程： 平成27年11月12日 9:30～11:30

参加者： 21世紀の会 木村琳藏、佐々木義昭、千葉榮、山崎将也  
清流会 菊池秀明、平野弘之、大林正英、佐々木聡

#### 【研修内容】

視察概要： 大阪府港湾局 大阪府泉大津市なぎさ町堺泉北港

研修課題： 港湾物流活性化におけるガントリークレーンの必要性

視察先対応者： 大阪府総務企画課危機管理グループ 國森雅彦様

視察に取り上げた理由： 釜石市の掲げる物流拠点釜石港をより有用性を高め来る三陸縦貫自動車道、東北横断自動車道釜石秋田線開通で相乗効果を得られることをねらい既存クレーンより運搬能力に優れたガントリークレーンを視察する事とした。

視察先の概要説明： 平成21年10月に設置された国土交通省成長戦略会議において、検討課題の一つ「海洋国家日本の復権」の一環として、大型化が進むコンテナ船に、対応出来るガントリークレーンを稼働させ、アジア主要国と遜色ないコスト・サービスの実現を目指す。このために「選択」と「集中」に基づいた国際コンテナ戦略港湾の選定を行うこととした。

平成22年8月「民」の視点の港湾運営、コスト低減策、国内貨物の集荷策などの具体性、計画性、実現性など今後の伸びしろを重視する選定基準により、国際コンテナ戦略港湾としての阪神港及び京浜港を選定した。

選定された国際コンテナ戦略港湾においては、内航・トラック・鉄道によるフィーダー網の抜本的強化に向けた施策等を推進するとともに、その運営にあたっては、民間企業が出資する「港湾運営会社」を設立し、「民」の視点による戦略的な一体運営の実現等により公設民営化等を通じ、国際競争力の強化を図ることとしている。

所感 震災から4年8ヶ月を経過した中で残されている課題はまだ山積しているのが実情である。

釜石市民の中には震災前の釜石よりもさらにより良い釜石市にしようと努力している市民も多数おられる。

その中で我々議員は市民の努力、希望、熱意に全力で応えるべきである。

今後整備される東北横断自動車道釜石秋田線と三陸縦貫道が交わる釜石市にとって物流拠点都市の役割を飛躍させるチャンスであることは言うまでもない。これと同時に港湾機能を充実させ陸路と海路を安全かつ効率的に運用することが釜石市の地域振興に大きく寄与するものと認識している。

今回の視察では釜石港の荷役機能向上に必要不可欠と言われているガントリークレーンの機械室までエレベーターで上がって見せていただきました。

また、環境問題の視点からいっても1トンの貨物を1キロメートル運搬するのにトラック輸送と船舶輸送を比較するとCO2排出量が75%削減されるというデータが国土交通省から発表されています。

この事からも港湾物流の可能性は魅力あるものだと言えるでしょう。

説明していただいた國森様のお話の中に「このクレーンは阪神淡路大震災の時も復興のために活躍したんですよ」という内容があり、何かの因果を感じた次第です。

地域の活気は人、物、お金、をいかにして効率良く回すかにつきると考えます。

物流拠点釜石市を現実のもとし復興の加速と市域振興を望みます。

## 1 堺泉北港の位置づけについて

国土交通省が、国際コンテナ戦略港湾政策によって、阪神港（神戸港、大阪港）と京浜港（東京港、横浜港、川崎港）を日本のハブポートにしようと力を注いでいる。このような中、コンテナ貨物集約面で同じ大阪湾に位置する阪神港と堺泉北港の位置づけ、役割分担についてご教示頂きたい。

⇒ 回答

（国際コンテナ戦略港湾政策の流れ）

平成21年10月	国土交通省成長戦略会議を設置 （「選択」と「集中」に基づいた国際コンテナ戦略港湾の選定）
平成22年8月	阪神港及び京浜港を選定 「国際コンテナ戦略港湾政策推進委員会」を設置
平成23年3月31日	港湾法及び特定外貿埠頭の管理運営に関する法律の一部を改正
平成26年1月	国際コンテナ戦略港湾政策推進委員会において「最終とりまとめ」を公表 （「集貨」、「創貨」、「競争力強化」の3本柱）
平成26年7月	港湾法の一部を改正（港湾運営会社に対して国からの出資を可能）
平成26年10月	「阪神国際港湾株式会社」が設立された
平成26年12月	阪神国際港湾株式会社に対して、国が出資

（堺泉北港の位置づけ）

国際拠点港湾として位置付け、近海航路、内航フィーダーのコンテナ貨物をターゲットにしている。

## 2 ガントリークレーンについて

阪神港にコンテナ貨物が集約される中、堺泉北港においてもガントリークレーンを3基整備のうえ、コンテナターミナルを運営されている。釜石港の場合はジブクレーンでコンテナ荷役をスタートさせているが、堺泉北港でコンテナを始められるに際し、ガントリークレーン荷役以外の選択肢はなかったかどうか、ご教示頂きたい。

⇒ 回答

ガントリークレーンの設置当時は、北米など基幹航路をターゲットにしていたため、ガントリークレーン荷役以外の選択肢はありませんでした。

## 3 ガントリークレーン運営コストについて

ガントリークレーン1基あたりの整備コスト、維持管理コストについて、概略をご教示頂きたい。

⇒ 回答

ガントリークレーン1基あたりの整備コストは、約881百万円。維持管理コストは、約21百万円。

## 4 ガントリークレーン能力について

ガントリークレーン荷役にかかる一時間当たりのコンテナ取扱個数はどの程度か、ご教示頂きたい。

⇒ 回答

一時間当たりのコンテナ取扱個数は、25個で設計しています。

## 5 コンテナ定期航路誘致にかかるガントリークレーンの影響力の有無について

堺泉北港にコンテナ定期航路が開設されるに際し、ガントリークレーンの有無が定期航路誘致に影響を及ぼしたという実感があったか、ご教示頂きたい。

⇒ 回答

ガントリークレーンの有無は定期航路誘致に影響は大きいと実感しています。

## 堺泉北港ガントリークレーンの視察



クレーン上部にて後方には堺泉北港



議員団後方のドラムにはつり上げ  
ワイヤーが巻かれている

2) 視察項目：大阪府大阪市

「大阪市立阿倍野防災センターについて」

大阪市消防局「警防資器材、指令センター見学及び大阪市消防局長表敬訪問」

○市民への防災意識の啓発、知識の習得等及び災害から市民の生命、身体財産を  
守護する取り組みについて

【日 時】：平成27年11月12日（木）

「大阪市立阿倍野防災センター」・・・14：30～15：30

「大阪市消防局」・・・16：15～17：40

【参加者】：「21世紀の会」 木村 琳 蔵 佐々木 義 昭  
山崎 将 也 千葉 榮  
「清流会」 菊池 秀 明 平野 弘 之  
大林 正 英 佐々木 聡

【相手方】：(1)「大阪市立阿倍野防災センター」  
(2)「大阪市消防局」

【場 所】：(1) 大阪市阿倍野区阿倍野3丁目13番23号  
あべのフォルサ3F 大阪市立阿倍野防災センター  
(2) 大阪市西区九条南1-12-54 大阪市消防局

【研修内容】： 大阪市立阿倍野防災センターについては、災害に強い「人と組織づくり」の一環として、防災教育環境の整備を掲げ、市民の防災能力向上を図るため、市民を対象とした啓発・研修・防災体験等を行っている。

施設の概要は、地上7階、塔屋1階、建面積3,043㎡、延面積12,580㎡のうち、3階及び4階の一部2,304㎡、工事費約26億円、そのうち展示設備が12億円で、平成16年5月11日に共用開始した。運営費として、平成27年度、約9,300万円の予算を計上している旨、担当者から説明があった。

また、大阪消防局では、指令管制業務（通信指令室）及び西消防署を視察した。指令管制業務（通信指令室）では、火災救急指令機能を中心に地図情報機能や消防車両動態管理・情報伝送機能などさまざまな支援機能を有機的に結合し構成される消防情報システムを取り入れおり、消防局では、消防情報システムによる迅速かつ最適な出場車両の動態把握、各種支援情報の伝送など警備体制のより一層の科学化・高能率化を図り、複雑多様化する都市災

害に対処していた。

西消防署では、国からの寄贈等により、様々な消防車両を配備し、各種災害に対応できる体制を整えているとの説明であった。

【所感・課題】： 阿倍野防災センター、大阪消防局を視察して、釜石市と大阪市では人口、設備等、規模の点で大きな差がありますが、当市にとっても参考にできることが多くあると感じました。その中で、当市に合ったやり方を考え、取り組んで行くことが大事だと強く感じました。

最後に、大阪消防局、4階会議室に案内され、大阪消防局長、警防部長、予防部長、各課長と意見交換を行い、大変有意義な視察でした。

【その他】：別添、写真、資料参照

# 阿倍野防災センター・大阪市消防局視察







消防司監

大阪市消防局長

打明茂樹

〒550-8566 大阪市西区九条南一丁目十二番五十四号  
電話(06)4393-1160 一五番  
FAX(06)6582-1128 一四番  
E-mail:s-uchitake@city.osaka.lg.jp

消防正監  
志手隆之

大阪市消防局  
警防部長



〒550-8566 大阪市西区九条南一丁目十二番五十四号  
電話(06)4393-1160 一四番  
FAX(06)4393-1475 四番  
E-mail:t-shide@city.osaka.lg.jp

消防監

大阪市消防局  
警防部司令課長

辻本育広

〒550-8566 大阪市西区九条南一丁目十二番五十四号  
電話(06)4393-1644  
FAX(06)4393-1475 〇



大阪市消防局  
予防部 地域担当課長

消防監 松本昌二

〒550-8566 大阪市西区九条南1-12-54  
TEL 06-4393-6325 FAX 06-4393-4580  
E-mail:sho-matsumoto@city.osaka.lg.jp



大阪市消防局  
予防部長

消防正監

藤井茂樹

未来へ繋げるアジアの消防  
~ Fire Service in Asia  
for Future Generation ~



〒550-8566 大阪市西区九条南1丁目12番54号  
TEL 06-4393-6310  
E-mail sh-fujii@city.osaka.lg.jp



今回視察した「ユウナル東海」は東海太田川駅西地区第一種市街地再開発事業であり平成23年3月の計画策定、24年6月に組合を設立し、施工期間は25年度～27年度。事業費は147億円。主な用途として、商業、公益施設（芸術劇場）、住宅、駐車場等。大規模のホールを有する文化施設が無かった東海市にとって、芸術劇場は念願であったと説明がありました。

東海市は、東海市芸術劇場の竣工に先駆けて「東海市文化創造プラン」を策定し、今後の文化振興から育成事業、にぎわい創出、市の発信力の強化を推し進め、「住んで良かった、住み続けたい」まちづくりへと繋げる計画を立てた。本年度10月にオープンした芸術劇場でも多くのオープニングイベントが来年初頭まで企画されており、さらに現在も次シーズンの新たなイベントを構想している。ひとつづくりの取り組みとして、文化鑑賞による市民参加から、企画・運営への参加へと繋げ、ひいては高い意識を持つ市民スタッフの育成へと発展させる事もプランに盛り込まれています。

「ユウナル東海」は住宅と住宅用駐車場からなる住宅棟と、文化施設（芸術劇場）、施設専用駐車場と店舗からなる文化施設棟の2棟が中央で繋がっており、今回の視察では文化施設棟のみを見学させて頂きました。大ホールは音響に優れた走行式音響反射板を舞台に使用、さらに客席と演者の距離を近く設計し演者と観客の双方に考慮した造りとなりました。客席は1階711席（車いす席6席含む）、2階314席で合わせて1,025席。席数については議論を尽くされ各種コンサートや連合音楽祭の開催も視野に入れた1,000を超す席数にする事に決定したとの事です。地下1階の駐車場から5階の大ホール2階席までに、練習室、ミーティング室、楽屋、和室といった部屋からキッズルームやバンドスタジオ、アートスペース等、市民が文化活動をするための多くの施設が整っていた。更には、東海市の文化的偉人について学ぶことができる嚶鳴広場というスペースがあり、ここでは釜石市の日本近代製鉄発祥の映像も放映していた。

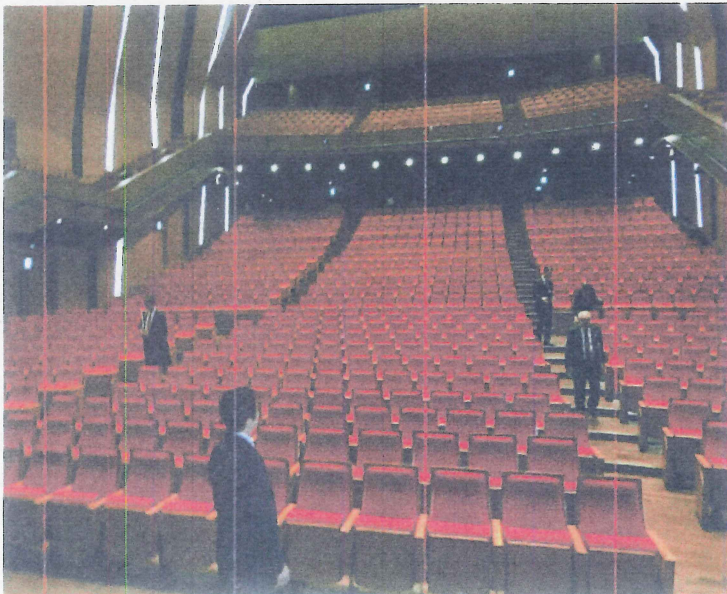
東海市の中心市街地活性化の方針は大きく分けて2つ。ひとつ目は～住みたくなるまちづくり～街なか居住の推進。成果指標として中心市街地の居住人口の増加を挙げ、平成22年4月の居住人口3,265人から平成28年4月目標値は3,400人であった。ふたつ目の方針は～訪れたいくなるまちづくり～来街者の回遊性の拡大。成果指標として歩行者・自転車通行料の増加を挙げ、平成22年10月の1,174人から平成28年10月目標値は1,470人であった。ひとつ目の目標値は平成26年4月に3,863人、ふたつ目の目標値は平成26年10月2,326人と、どちらの目標値も平成26年度中に達成した。

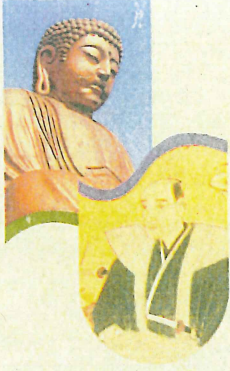
太田川駅乗降客数も年々増加している。

所感：

今回視察した東海市の東海太田川駅周辺で進められている「太田川駅周辺地区中心街整備事業」は、連続立体交差事業や高架線路建設などを含めて昭和50年代から構想があった事業で、全体としてみれば着手された平成4年から23年、計画協議会が設置された昭和53年から数えると37年が経過しております。長い年月の間に地元説明会での反対や整備対応室の設置、研究会の発足、土地換地を短冊換地にする等、紆余曲折を経て現在の絵が出来上がったとの事でした。現在、釜石市でもにぎわい創出のために公共施設と商業施設を効果的に配置した商業文化情報交流の拠点地づくり「フロントプロジェクト1」が進行しています。今回の視察では、来街者の回遊性向上に向けた取り組みや、文化創造プラン策定による文化振興を中心に据えたまちづくりとひとづくり、利便性の高いコンパクトシティを掲げたまちなみの視察など、多くの学びがあり、当市に於いても参考に出来る部分は多大にあったと感じました。しかし、2都市の規模や、時代背景、当市では被災からの復興事業であるなど東海市の例と当市の実情とは大きな相違点があるものの、東海市では構想から40年近い年月をかけて進めてきた事業を当市では数年で実現に向かって推し進めなければならないので、しっかりと住民の思いを汲み、様々な観点から十分に議論を尽くし、我が町にあった計画を立てていかなければならないと痛感しました。

東海市 太田川駅周辺地区中心街整備についての説明及び東海市芸術劇場内視察





東海市議会事務局

局長

坂野佳邦

〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地  
TEL 052-603-0031  
FAX 052-601-0627  
E-mail: gikai-ji@city.tokai.lg.jp

聚樂園大仏 細井平洲



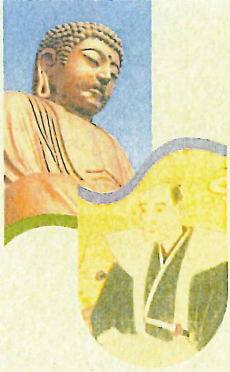
東海市都市建設部  
中心街整備事務所

次長

大岩隆

〒477-0031 愛知県東海市大田町東畑119  
TEL 0562-33-7761  
FAX 0562-33-7775  
E-mail: chuushin@city.tokai.lg.jp

聚樂園大仏 細井平洲



東海市都市建設部中心街整備事務所

主幹

花井範行

〒477-0031 愛知県東海市大田町東畑119  
TEL 0562-33-7761  
FAX 0562-33-7775  
E-mail: chuushin@city.tokai.lg.jp

聚樂園大仏 細井平洲



東海市議会事務局議事課

主事

井上直美

〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地  
TEL 052-603-0031  
FAX 052-601-0627  
E-mail: gikai-ji@city.tokai.lg.jp



東海市芸術劇場管理課

課長

野口剛規

〒477-0031 愛知県東海市大田町下浜田137番地  
TEL 0562-38-7030 (ユウナル東海内)  
FAX 0562-38-7028  
E-mail: kanri@city.tokai.lg.jp